



第28回 稲門建築会特別功労賞(業績)

えがわ なおき

江川 直樹 (苗1974)

関西大学名誉教授

稲門建築会特別功労賞の候補として江川直樹先生を推薦いたします。江川先生は稲門の修士課程修了後、現代計画研究所に入所されました。藤本昌也氏の下、集落の魅力を知るとともに、青山のヨックモック本店の設計からも強い影響を受けたとのこと。その後活動の場を関西に移され、現代計画大阪事務所長、現代計画代表、関西大学教授などを歴任、人が如何につながっていくかという点に焦点を置かれ、集住環境の再生・再編に関する建築・地域デザイン活動を長く継続されています。ヨックモック本店は推薦者にもとても印象に残る建築でした。早稲田に入学した当初、東京の街中で初めてモスクのようなコバルトブルーのしかしマッシブな清廉な建物と対面し、その精緻なインテリアとともに何か醸造された豊かな空間性を感じました。街に、社会に対してとても大切なメッセージを放っている建築であります。江川先生も入所された当時、その清廉な意匠のなかにご自身の思考の跡も残され、その後の大規模な集合住宅をはじめとする数々の作品の中に、人がつながる艶やかな関係性を創出されています。「緑のタイルの家」という作品を関西に戻られた際に創られています。そのマッサと色タイルの扱いはまさしくヨックモックに通じるものを感じます。コの字に囲まれたバッファが街とつながり意識を導きます。大阪事務所設立後は必然的に関西を中心に活動されますが、積極的にネットワークを拡大され、ご本人の人徳により、周辺からの信頼も厚く人が集まる設計組織を形作られました。ご本人の話では自分はシャイで人前で話すのが上手くないと言われますが、傍で拝見している限りはとても饒舌にしかも真摯にお話をされ、人の心をグッとつかまれます。何か、推薦者の師であった池原義郎先生のお話しされる姿を失礼ながら思い起こしていました。

関西大学教授となられた後も、後進の指導はもちろんのこと、創作活動も活発に続けられます。大学の授業では推薦者とともに教鞭をとらせていただいたこともあります。とにかく早稲田大学で我々が体験したものづくりに対する根本的な姿勢と喜びを関西大学の学生たちにも伝えていかれたかと思います。日本建築学会の学生コンペにて上位の賞をとる学生も多数輩出し、関西における建築設計者の指導に功績を残されています。

一方で社会ストックの再生という現代最も私たちが注視しないといけな社会問題に対してもある答えを積極的に出されています。1) 和歌山県御坊市における疲弊した改良・公営住宅の建て替え事業では、住民参加型のワークショップ・ハウジングとして10年をかけて粘り強く取り組み、 「立体集落」などの実験的な方法を発案、実践し、「社会的設計として、現代都市計画の理論と実践に寄与する重要な作品成果を挙げている」(日本都市計画学会賞・計画設計賞)と評され、居住住民と地域住民にいきいきとした豊かな集まって住む環境を提供しています。ヨックモックの生き生きとした艶やかさに通じるものを推薦者は感じます。2) 1995年に発生した阪神・淡路大震災からの復興に際して、被災前の路地空間等の雰囲気を生かした復興を目指し、自力再建住宅のスケールに合わせて分節した小規模な復興公営住宅を地区内に分散配置した計画を策定されています。市街地の環境改善を図られた芦屋市若宮地区震災復興住環境整備事業の例は、修復型復興の好例として被災後 30 年を経た今でも評価が高く、この事業でも、住民と行政と専門家の密度の濃い協働のプロセスにより、満足度の高い近隣環境が実現しています。 その後も、3) 関西有数の大規模団地・UR浜甲子園団地の建替事業では「団地からまちへ」をテーマとして当初から提案参画され、マスターアーキテクトとしてまた、デザイン協議会の座長としての監修等30年に及ぶ活動を継続し、本年2月をもってすべての戻り入居が完了しました。4,600戸の公的賃貸住宅のみで構成されていた少し退屈で均質な団地が多様に富む時代に即した市街地に再編された例など、常に社会的な視点に基づいた住環境の再編整備に真摯に取り組まれています。

江川先生の長年にわたる活動はまず、社会を次の明るいステージに導くための社会インフラとしての建築、特に集合住宅の新築にとどまらず、有り余る社会財としてのストックを如何に後の世に視点を変え活用していくかを考え続け、実践されてきました。地道な活動でありながら、社会ストックの再生・活用・維持ということでも大切にサスティナブルな活動を継続されています。

それから早稲田から少し離れた地ではありますが、稲門で培われたものづくりに対する姿勢と哲学を後輩たちに伝承し育成することにより、これからの社会を憂いながらも、だからこそものづくりを通じて社会に影響力を与えサスティナブルな未来の実現に向け寄与されています。

社会的環境の再生、再編に真摯に取り組まれてきた氏の長年にわたる業績は、稲門建築会の名を高めると共に、社会への貢献が大きく、稲門建築会特別功労賞にふさわしいと、誠意をもって推薦させていただきます。

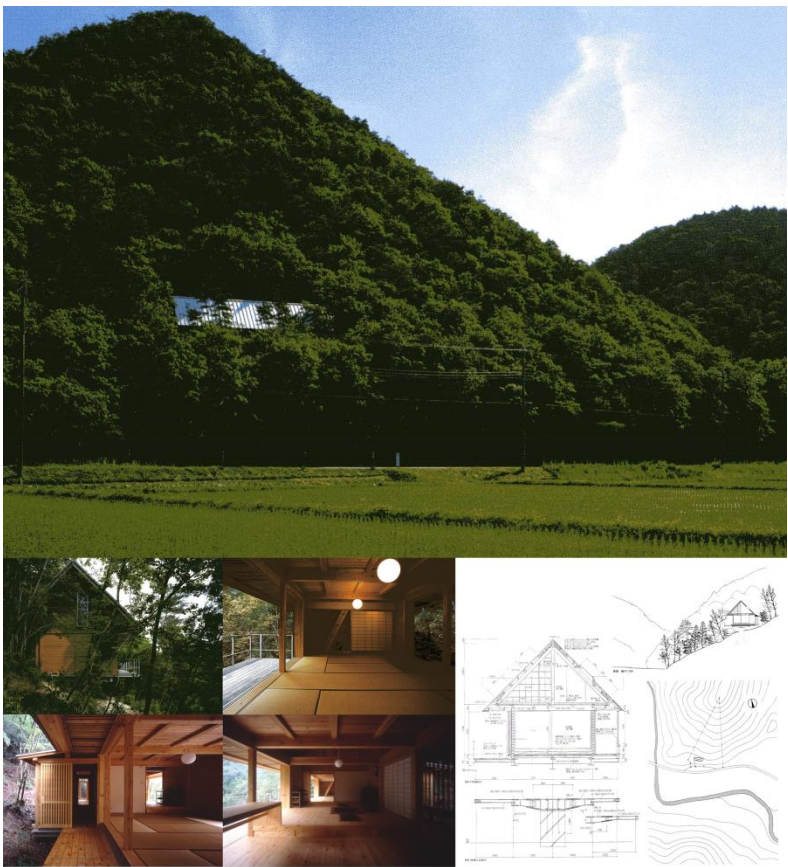
推薦者：森下修 (苗1985)



■ 緑のタイルの家 1990
敷地は高台の雑木林が残された一画。周辺はまちなみに対して閉鎖的な家が多いため、通りに対する表情を積極的に表現することをめざした。そこで外壁には、季節や天候、時間や変化に微妙に対応する (いちばん安心な) 磁器質50角タイルを用いることにして、青磁をイメージした施釉の深みのある緑のタイルを開発した。
・JT-9103
・TOTO建築MAP大阪/神戸
・建築知識9110 タイルの達人

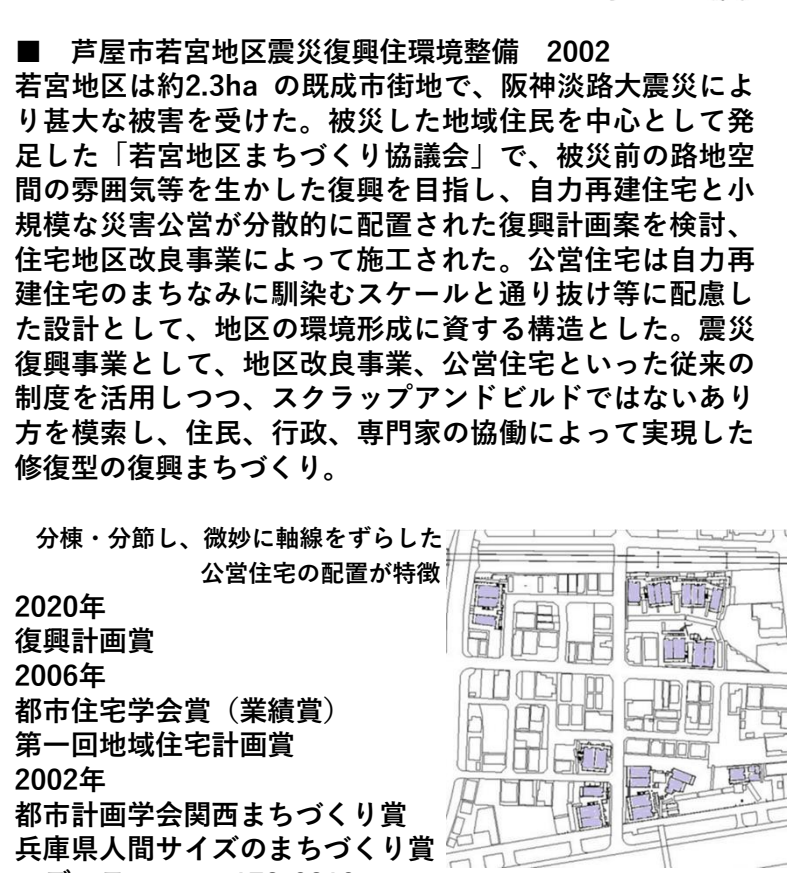


■ 今田町の家 1998
斜面地の既存樹林をできるだけ残すために掘り起こす土の範囲を極力少なくしたい。少し谷状になった部分をまたぐようなかたちで600ミリ径の2本の柱で支えられた鉄骨のステージの上に、プレカットした木材で組み立てられ、しかし、周囲の圧倒的な自然に負けないような小屋を浮かせた。外壁は、厚さ70ミリのスギ板を柱間に落とし込み、ダボとボルトで縫っており、内外の上げはなくこれだけで。空中に浮いた緑間住宅で、南北に抜けた空間を、鳥や蝶々が、そして気持ち良い風が通り抜ける。
・JT-9812 ・住む0201 ・住宅建築0211別冊
2002年家づくり賞 2001年大地に還る住宅優秀賞
2000年日本建築士会連合会賞 (作品賞)



■ 御坊市宮島団地再生 2001
1959～1969年に建設された中層耐火の公営住宅、改良住宅の建物老朽化、生活困難化、コミュニティ荒廃化からの再改良事業。現地に島団地対策室を設営、年度毎の小グループ毎に徹底したワークショップ方式により、住民・行政・設計者の協働による計画・設計・建設が進行した。個々の住民の生活再生支援、地域の人間関係再生、コーポラティブ方式による集合住宅設計プログラムを組み合わせて実施。設計面においては空中街路ネットワーク、モジュールの分散配置、分節化され変化と開放性のある住棟配置など、従来の集合住宅地ない魅力のある社会的空間の実現をめざした。制服を着て並んだような団地とは正反対のカジュアルなまちなみ、どこをとっても同じ眺めがない新しい考えが現実の公営住宅で実現したと評されている。

2002年
日本都市計画学会賞 (計画・設計賞)
2000年
都市計画学会関西まちづくり賞
和歌山県ふるさと建築賞観賞
・現代日本の建築vol.3 2009
・建築設計資料集成-65 9803



■ 芦屋市若宮地区震災復興住環境整備 2002
若宮地区は約2.3haの既成市街地で、阪神淡路大震災により甚大な被害を受けた。被災した地域住民を中心として発足した「若宮地区まちづくり協議会」で、被災前の路地空間の雰囲気等を生かした復興を目指し、自力再建住宅と小規模な災害公営が分散的に配置された復興計画案を検討、住宅地区改良事業によって施工された。公営住宅は自力再建住宅のまちなみに馴染むスケールと通り抜け等に配慮した設計として、地区の環境形成に資する構造とした。震災復興事業として、地区改良事業、公営住宅といった従来の制度を活用しつつ、スクラップアンドビルドではないあり方を模索し、住民、行政、専門家の協働によって実現した修復型の復興まちづくり。

分棟・分節し、微妙に線軸をずらした
公営住宅の配置が特徴
2020年
復興計画賞
2006年
都市住宅学会賞 (業績賞)
第一回地域住宅計画賞
2002年
都市計画学会関西まちづくり賞
兵庫県人間サイズのまちづくり賞
・ディテール no.178-0810

■ UR 浜甲子園団地建替(再編)さくら街 2006/2008
旧浜甲子園団地は、敷地面積31万㎡、150棟、4,613戸の住宅に約1万人が暮らす関西でも有数の大規模(賃貸)団地である。「団地からまちへ」をテーマに、公共道路の導入、公園や近隣の河川堤防へのアクセス、樹木等ができる限り残す、大きすぎないスケール化、多様な居住者層の確保等によって、ヒューマニタリーな佇まいの形成を図った。建替第1期エリア(877戸)では、プロボラザルによって、ブロックアーキテクトを兼ねるマスターアーキテクト方式が採用され、多様な設計者が参加するプロジェクトとなった。団地再生事業としては、本年2月に30年の月日を経て戻り入居が全て完了し、戸建て、分譲集合、福祉や商業、公共施設の整備もほぼ完了して、「団地から地域環境にふさわしいまちへ」の再生が一段落を迎えた。

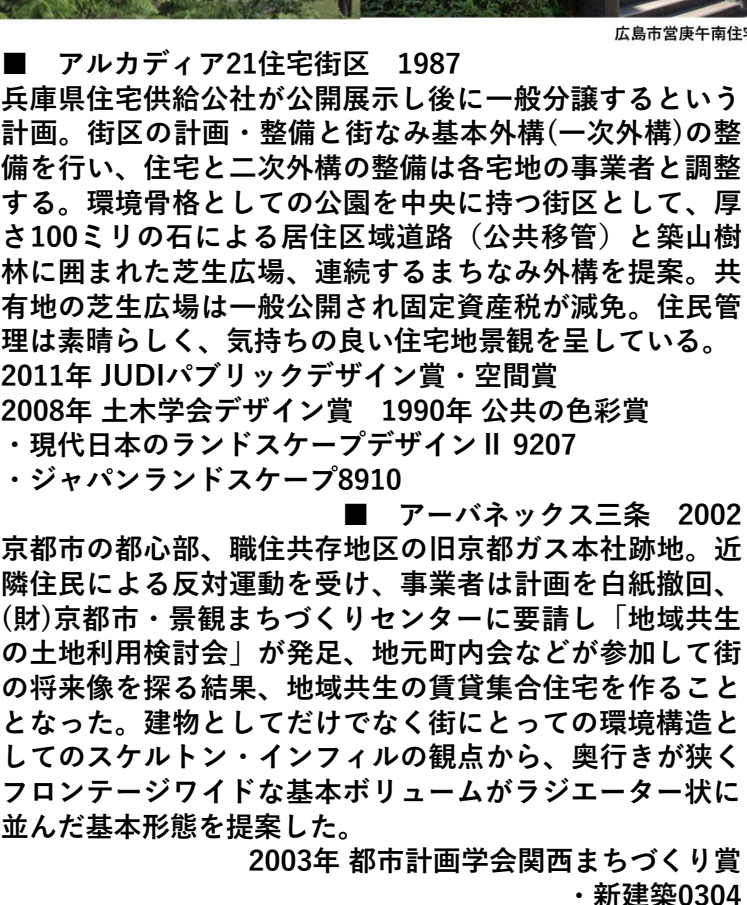
2014年
JUDIパブリックデザイン賞・大賞
2011年 西宮市都市景観賞
2010年 地域住宅計画賞
2009年 都市住宅学会賞 (業績賞)
2008年 日本建築家協会優秀建築選
2007年
都市計画学会関西まちづくり賞
・現代日本の建築vol.4 2011
・日本建築家協会優秀建築選集 2008

■ 南芦屋震災復興公営住宅 1998
阪神・淡路大震災対応の震災復興公営住宅(市営住宅440戸、県営住宅414戸)で、当時、まさに完了寸前であった埋め立て地の土地利用計画を一部変更して実施された。敷地は南芦屋地区の入り口に位置し、人々は公営住宅地内を横断してアクセスする。公営住宅は、高さの異なる分棟配置とし、海と、背景の六甲山の両方に開いた構成として、南の海側を高い塔状、北側を低くし、将来の海浜住宅市街地、およびマリナーにアクセスする海からの優れた景観を形成しつつ、公営住宅住戸からの眺望も確保する形態とした。公営住宅エリア自体もまちに開いた環境骨格として、公営住宅がまちの中心に在って、商業施設やマリナー、専用マリナー付住宅などの多様なにぎわいや景観の中心になるとい、近年のわが国では珍しいプロジェクトとなった。

2010年 地域住宅計画賞
1999年公共の色彩賞
・日経アーキテクチュア9806

■ 広島市宮庚午南住宅 1986
「当時老朽化した市営住宅が持つ木造平屋の住宅街の空気感を再現し、かつ現代のニーズを満たしつつ中庭空間や路地空間、視線の"抜け"の確保、セッパックによるテラスの確保など、様々な設計上の工夫がなされている奇跡の建築物である。・・・壁面は細かく分節され、各所に視線や風の"抜け"が設けられている・・・1階平面のバックヤード・専用庭・エントランスが分散配置されており、死角が少ない。いわゆるマンションとは違う、伝統的集落にも似た空気感がよく出ている。
http://www.arch-hiroshima.net/ぶらり広島街あるき2010.9.23より」

計画は市の内部で一旦お蔵入りのものの、最終的に住民の賛同によって復活した経験が懐かしい。基本計画では4Fブリッジがつながっていた。



略歴	非常勤講師歴
1951年 三重県生まれ	1995年 立命館大学理工学部 (-2004)
1974年 早稲田大学理工学部建築学科卒業	1996年 神戸芸術工科大学環境デザイン学科 (-2000)
1976年 早稲田大学大学院修士課程修了	2001年 京都造形芸術大学環境デザイン学科 (-2004)
1977年 株式会社現代計画研究所	大阪市立大学生活科学部 (-2004)
1982年 株式会社現代計画研究所大阪事務所開設 大阪事務所長	三重大学工学部 (-2021)
1997年 株式会社現代計画研究所代表取締役 (大阪事務所長)	2017年 奈良女子大学生活環境学部 (-2018)
2004年 関西大学工学部建築学科教授 (07年環境都市工学部に改編)	(解説作品以外の) その他の主な受賞歴
2005年 カンパニョロック村実測調査開始 (建築環境デザイン研究室)	1997年 奈良市建築文化賞 ローレルスクエア登美ヶ丘
2008年 関西大学先端科学技術推進機構 地域再生センター長	2006年 都市住宅学会賞、著作賞「住まいと街の仕掛け人」
株式会社現代計画研究所 顧問	2008年 日本都市計画学会賞・計画設計賞 六甲道駅南震災復興再開発
2011年 文部科学省戦略的研究基盤形成事業「集合住宅"団地"の再編手法に関する技術開発研究」代表	2008年 都市計画学会関西まちづくり賞 六甲道駅南震災復興再開発
2018年 関西大学名誉教授	2015年 都市計画学会関西まちづくり賞 丹波市佐治-大学連携地域再編
2018年 関西大学環境都市工学部建築学科特別契約教授 (-2021)	2016年 都市住宅学会賞、業績賞 八幡市男山団地-大学連携地域再編
2022年 関西大学社会連携部顧問 (-2024)	2017年 都市住宅学会賞、著作賞「ストック活用型団地再編への展望」
	2018年 科学技術分野の文部科学大臣表彰・科学技術賞
	2020年 都市住宅学会賞、業績賞 河内長野市南花台-大学連携地域再編
	2021年 都市計画学会関西まちづくり賞 南花台-大学連携地域再編 等
主な公職歴	主な著書
2005年 吹田市建築審査会 (-2017)	2003年 住まいと街の仕掛け人 学芸出版社
吹田市開発審査委員会 (-2017)	2010年 美しい両棲集落 カンパニョロック村の実測調査から 関西大学
2009年 奈良県景観審議会 (-2017)	2011年 場所の声を聞く 関西大学出版部
2012年 吹田市環境審議会 (-2022)	2017年 ストック活用型団地再編への展望 関西大学出版部
2013年 大阪市ハウジングデザイン賞選考有識者会議	2019年 <緑>と<出会い>の空間へ 萌書房 等
2018年 大阪府河内長野市近未来技術地域実装協議会 等	